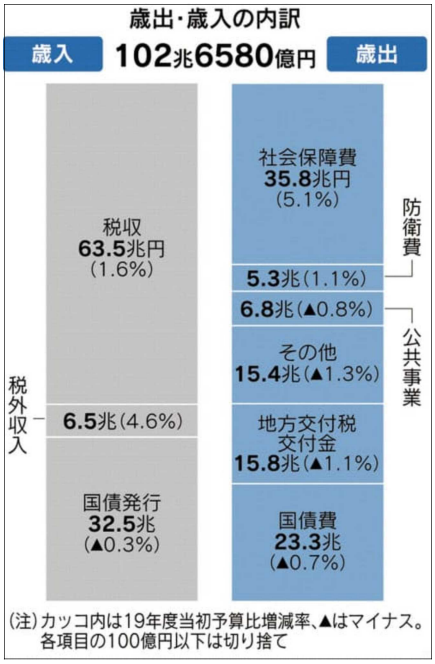
23. 国家予算

30 歳頃だったろうか、勤めている会社の売上の 10 倍がある大手通信機メーカーの売上、その 10 倍が NTT の売上、さらにその 10 倍が国家予算（一般会計）、と大雑把に理解していた時期があった。会社の売上が 500 億円位だったときで、その 1,000 倍の 50 兆円が日本の国家予算と覚えていた（因みに 1 万円札で 50 兆円の厚さは 500 ㎞ほどで東京から大阪までの距離）。



12 月 20 日に 2020 年度の予算案を閣議決定した、という記事を読んでみた。大変な記事の量で、しかも専門知識や経過を知らないと理解するのは難しいのだが。

一般会計の総額は 102.6 兆円で同時期の前年度より 1.2 兆円の増。歳入でみると国債発行が 32.5 兆円で全体の 32 %。これは借金だが、10 年連続で減額だという。借金の累積を見ると、2000 年度は残高 368 兆円で利子支払は 10 兆円、2020 年度見込みは残高 906 兆円で 2.5 倍に増えているのに利子支払は 8.4 兆円とある。低金利になったということか。何故低金利になったのか、それはいつまで続くのか、低金利だから借金を増やしてよいのか等の疑問が出る。残高 906 兆円というのは、よく言われる借金 1,000 兆円、国民一人当たり 800 ～ 900 万円のことだろう。テレビの討論番組で国債は日銀と民間銀行がほとんどを持ち、外国からの借金は僅かだから心配無用と聞いたことがあるが、私は本当のところは理解できていない。本当に心配無用なのだろうか。

歳出は社会保障費が 35.8 兆円（35 %）で 8 年連続で更新という。医療・年金・介護・福祉などで高齢化が進み増えるのはわかるが、相当な額で妥当なのかはにわか勉強ではわからない。消費税が上がったが全てが社会保障の財源向けられているのだろうか。国債費は 23.3 兆円（23 %）で、これは借金（国債）の利払い費（8.4 兆円）と債務償還費（14.9 兆円）。一般家庭に例えれば、収入の 32 %は借金で、支出の 23 %は借金の返済ということか。ともに大きい値だ。

地方交付税交付金・公共事業・その他などは、正直こういうものかという程度でしか理解できない。中味を知って理解するにはそれなりの時間と根気が必要だ。

防衛費は 5.3 兆円（5.2 %）で前年度より 1.1 %増だが、記事で気になったのは「宇宙防衛に 506 億円」という見出し。「首相が創設に意欲を示す『航空宇宙自衛隊』に関連し、宇宙空間での防衛態勢強化に向けた経費 506 億円が予算案に盛り込まれた。『新たな戦場』として米国や中国などが開発競争を繰り広げる宇宙空間を常時監視する『宇宙作戦隊』（仮称）を新設して約 20 人を配置」と記事にある。宇宙の軍事利用の現実化ということで大変な驚きだ。

残念ながら、記事を読んでも本当に大雑把にしかわからない。財務相がいう「経済再生と財政健全化」に対応した予算なのか。国民が経済発展と便利な生活を限りなく求める限り予算はふくらみ、借金は増え続ける。「足るを知り」、物質的な豊かさからの転換が必要と思うのだが。

（2019 年 12 月 25 日）